

## 6 近世の和本（古典籍）

### ①形態

・卷子（かんす）本 書写あるいは印刷した紙を横長に継ぎ、末尾に巻軸をつけ、巻頭にも軸をつけてその中央部に紐をつけ、巻きおさめるときに紐で締め結びます。絵巻物など。

・折（おり）本・折帖

紙を一定の幅に折って畳んだ本で帖装本（ジョウソウボン）とも呼ばれます。お経や手習いの手本など。筆鑑や画帖などの折帖仕立ても折本の一つです。

・畳物（たたみもの） 地図など1枚の紙を折り畳んで表紙をつけたもの。

・粘葉装（でっちょうそう）

二つ折りにした料紙を重ね合わせ、折目の部分を糊付けしたもの。

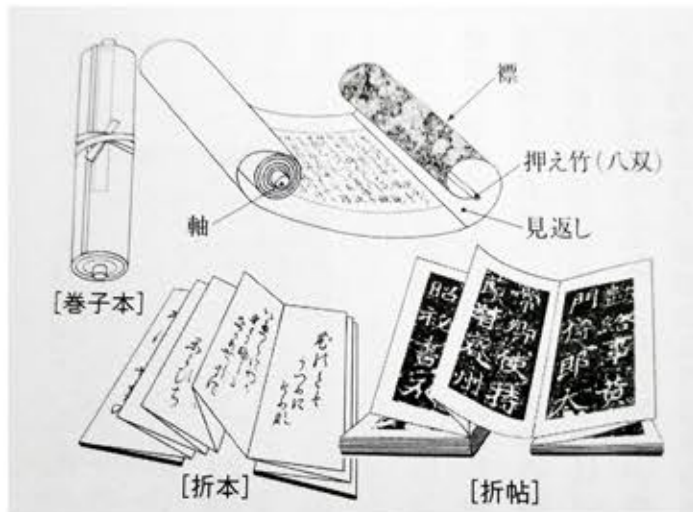
・列帖装（れっちょうそう）・綴葉装（テツショウソウ）

紙を重ねて2つ折りにして、これを2折以上折り目を糸で綴じた装訂。ノートがこの綴り方に近い。

・袋綴・線装本（センソウボン）

文字の書かれた面を外側に2つ折りし、これらを重ねて折り目の反対側を糸で綴じます。和本・唐本・韓本の一般的な装丁方法。

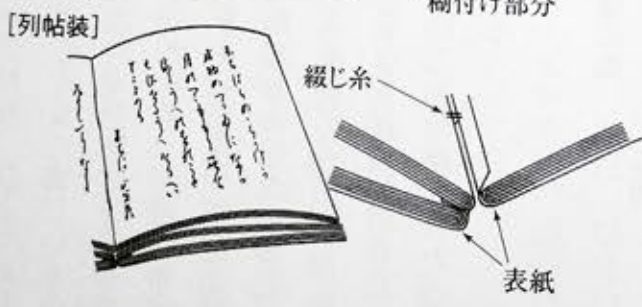
【袋綴・線装】



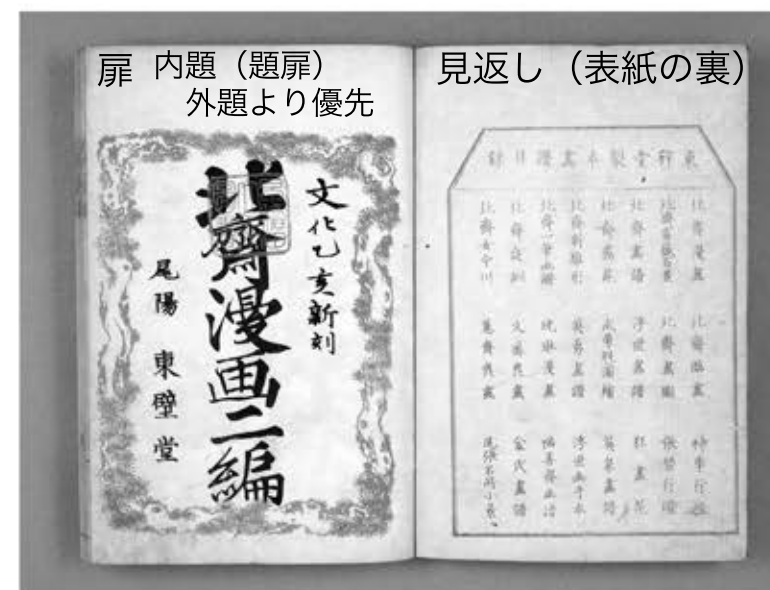
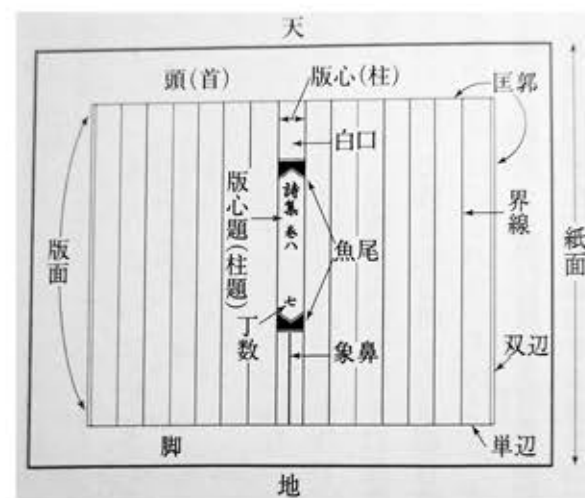
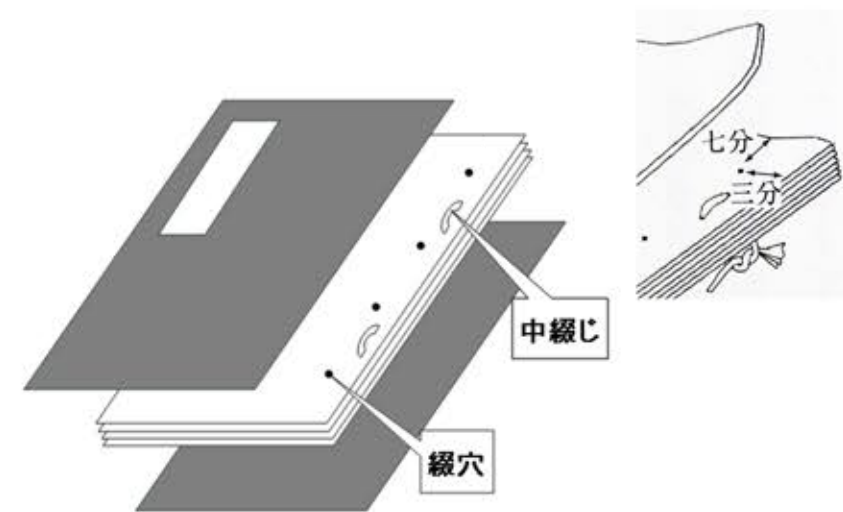
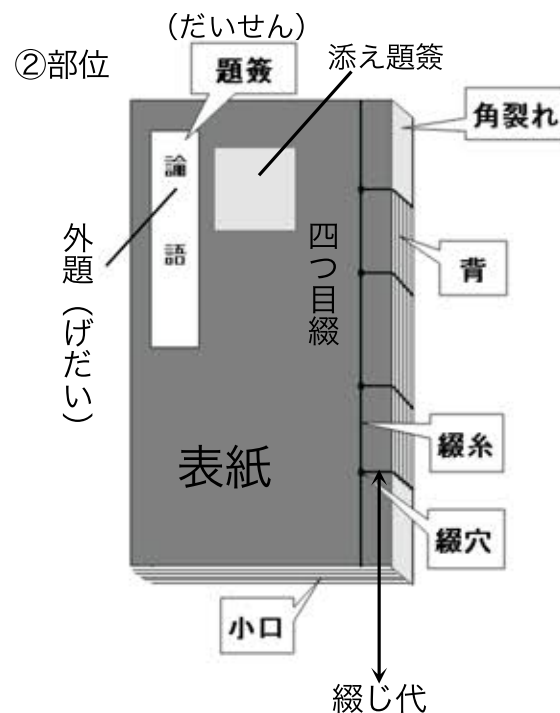
【粘葉装】



【列帖装】



### ②収納



版心(柱)  
ここに記された書名が「版心題」

袋綴の表・裏一枚で「一丁」呼び方は、5丁めなら、先のページが「5丁オ」（5丁の表）後のページが「5丁ウ」（5丁の裏）

奥付  
刊記（出版年月日、出版地、出版者）

小口に書かれた題を  
小口書きという

